

ワンポイント・ブックレビュー

浅海典子『女性事務職のキャリア拡大と職場組織』日本経済評論社、2006年

男女雇用機会均等法が施行され早20年...企業における女性の人材活用は変わってきたのだろうか。女性労働者、女性役職者は増加しているのだろうか、女性の職域は広がっているのだろうか、女性が働きやすい職場環境がきちんと整備されているのだろうか。さらに、採用(例えば一般職、総合職と言われるような)から配置、育成に至るまで、男女間のさまざまな格差は縮まってきたのだろうか。

本書は、女性労働者、とりわけ事務職に従事する女性労働者を対象とし、「女性事務職の仕事とキャリアを職場組織の中で捉え、その内実と変化をあきらかにすること」を目的としている。

これまでキャリアに関する研究は数多く行われてきているが、女性労働者を対象としたものはきわめて少ない。また、アンケート調査やインタビュー調査を行い、女性事務職の職務内容やキャリア、技能形成とその変化などを、筆者は詳細にわかりやすく分析している。論者も以前にキャリア研究に取り組んだことがあったが、職務内容の変化や技能形成のあり方といった例示方法などは大いに参考になる。そのような事柄のひとつひとつを洗い直し、分析を行うことこそ、キャリア研究にとって最も重要であるということも再認識させられるものであった。

分析の視点として、以下の3点があげられている。第1に「女性事務職は仕事経験を積み重ねることによって、能力伸張とキャリア拡大を図っているか」、第2に「男女の職務は分断され、女性事務職は補助的な役割にすぎないのか」、第3に「女性事務職の仕事とキャリア、および性別職務分離はなぜ変容していくのか」といった点である。本書は二部構成となっており、第1部では情報通信機器メーカーA社の営業職場の女性事務職の調査、第2部ではさまざまな企業で営業職に進出した10人の女性事務職の事例研究から、上記の視点に基づいた分析が行われている。

さまざまな分析を通じて、筆者は、女性事務職の能力伸張とキャリア拡大を促進するためには、「女性事務職が毎日の仕事の中で、いかに腕を磨いていくか」、「日々の仕事の中で職場の上司が女性事務職にどのような仕事と目標を与えるか」、「女性事務職の職務の価値を正しく評価して公正に処遇する」ことが重要なポイントと述べている。

一般的に、女性労働者の方が優秀だと聞かれる。女性労働者の勤続年数も増え、企業への定着率も高まっている。とはいえ、依然として男女間のさまざまな格差問題は解消されていない。女性労働者の仕事やキャリアについても、男性からみた場合と女性からみた場合では、考え方や意識も大きく異なる。女性労働者のキャリア形成を考える上で、確かに女性自身の考え方や姿勢も重視されるべきであるが、やはり女性を取り巻く職場環境や労働条件の整備に加え、男性の意識変革というものが不可欠である。男社会といわれる労働組合という組織にもそのような“変化”が必要であり、組合業務と組合役員のキャリアの内実と変化を、男女問わず明らかにしていくことが労働組合にも求められていよう。(O・Y)